

「新型コロナウイルスに関するアンケート」の結果

—1回目と2回目の変化—

先日は、2回目の「新型コロナウイルスに関するアンケート」に回答いただき、ありがとうございました。アンケートの分析をいくつか行いましたので、その結果をご報告させていただきます。ご参考になれば幸いです。

奈良女子大学
安藤香織・梅垣佑介・竹橋洋毅

アンケート結果

8月7～11日に第1回調査を実施し、1645名の方が回答してくださいました（有効回答数1555名）。つづいて11月20～27日に、第1回調査に回答していただいた方を対象に第2回調査を実施し、1338名の方から回答を頂きました（有効回答数1257名）。

表1 性別・年代別の回答者数

	18-29歳		30-39歳		40-49歳		50-59歳		60-69歳		合計
	男性	女性									
1回目	155	158	155	156	150	156	150	156	159	160	1555
2回目	108	115	121	126	122	130	124	134	140	137	1257

1回目調査と2回目調査の結果の比較

新型コロナウイルスに対するリスク認知

新型コロナウイルスに対するリスクについて、どのように感じているかを尋ねました。リスク認知は「恐ろしさ」「死に至る可能性がある」などの4項目で測っています。

2回目の時点では、減少傾向がみられ、わずかですが時間の経過とともに人々のリスク認知が下がっていました。

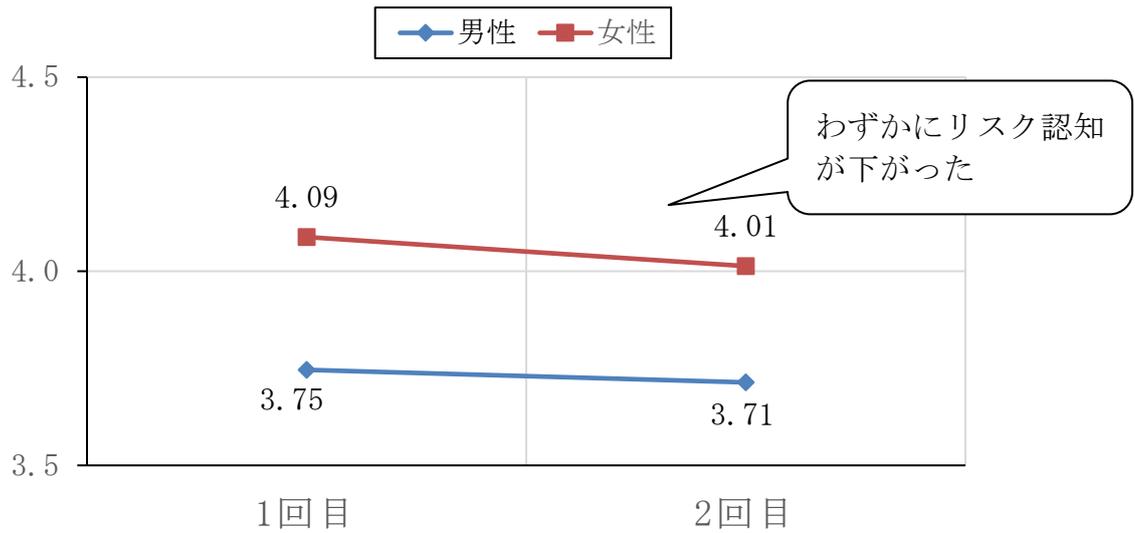


図1 男女別のリスク認知の平均値比較

新型コロナウイルスに対する不安感情

新型コロナウイルスに対する不安をどのように感じているかを尋ねました。リスク認知とは異なり、不安感情は男女ともにあまり変化が見られませんでした。

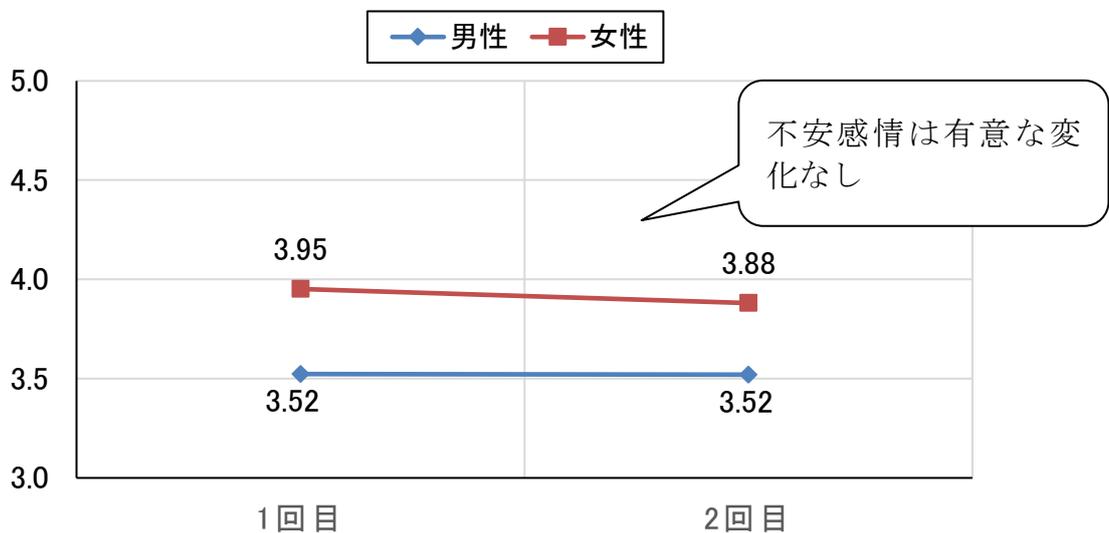


図2 男女別の不安感情の平均値比較

感染確率の予想

今後1ヶ月以内の自分の感染確率の予想、および自分と同じ都道府県に住んでいる平均的な他者の感染確率の予想について、0～100%で尋ねました。その結果、2回目の調査における自分の感染確率の予想は1回目調査よりも高くなっていましたが、他者の感染確率の予想は1回目調査と2回目調査の間に変化がありませんでした。

性別による違いは2回目調査でも見られ、自分の感染確率も他者の感染確率も女性の方が男性より高いことが確認されました。

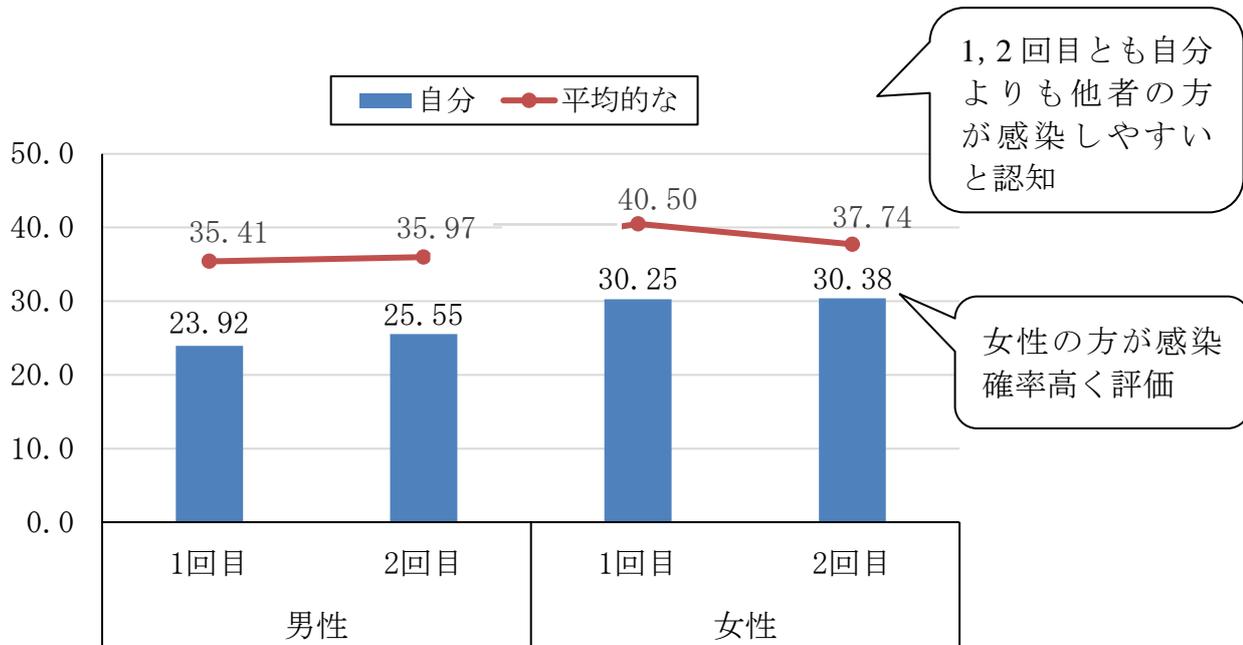


図3 男女別の感染確率の予想 (%)

感染予防行動

新型コロナウイルス感染予防のために、予防行動をどれぐらい実施しているか、1回目と2回目の調査結果を比較しました。

外出時のマスクの着用については、2回目の調査時点では「可能なかぎりしている」を選択する人の割合が高くなっており、マスクを着用することが定着してきたようです。

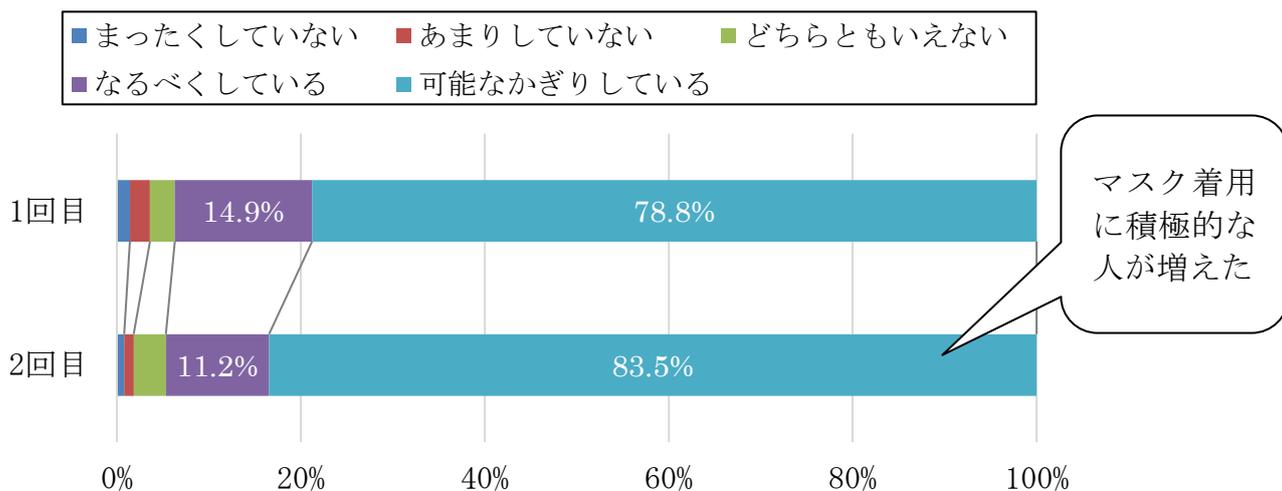


図4 外出時のマスク着用状況

用事がないときの外出控えについては、「可能なかぎりしている」を選択する人の割合が少し下がっていました。

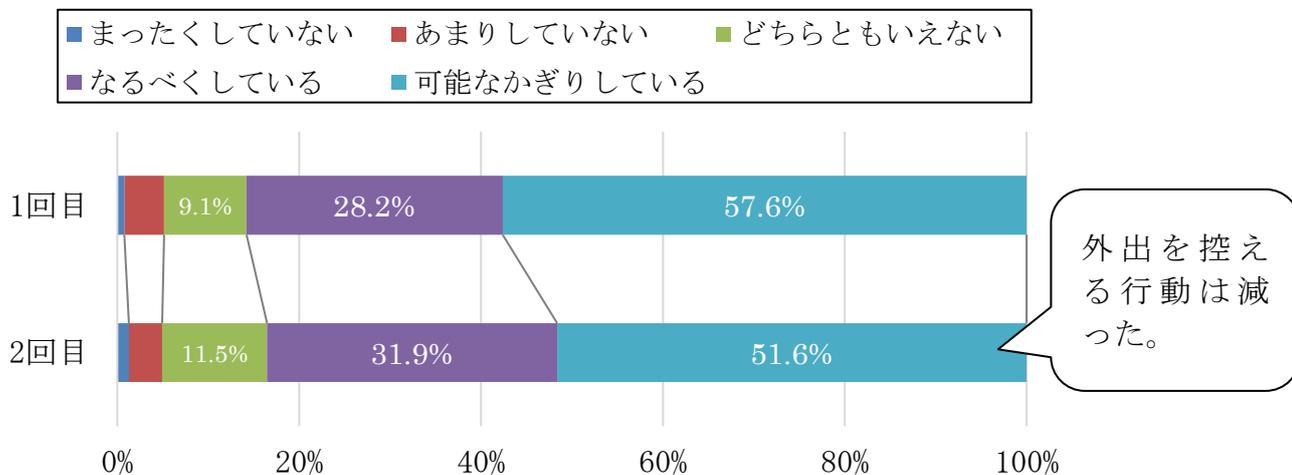


図5 不要不急の外出控え状況

「定期的に窓を開けて、部屋の空気を入れ替える」については、実行している人の割合が下がっていました。これは、新型コロナウイルスに対する危機意識の低下というよりも、気温が低下し、窓を開けるのをためらう人が増えたからかもしれません。

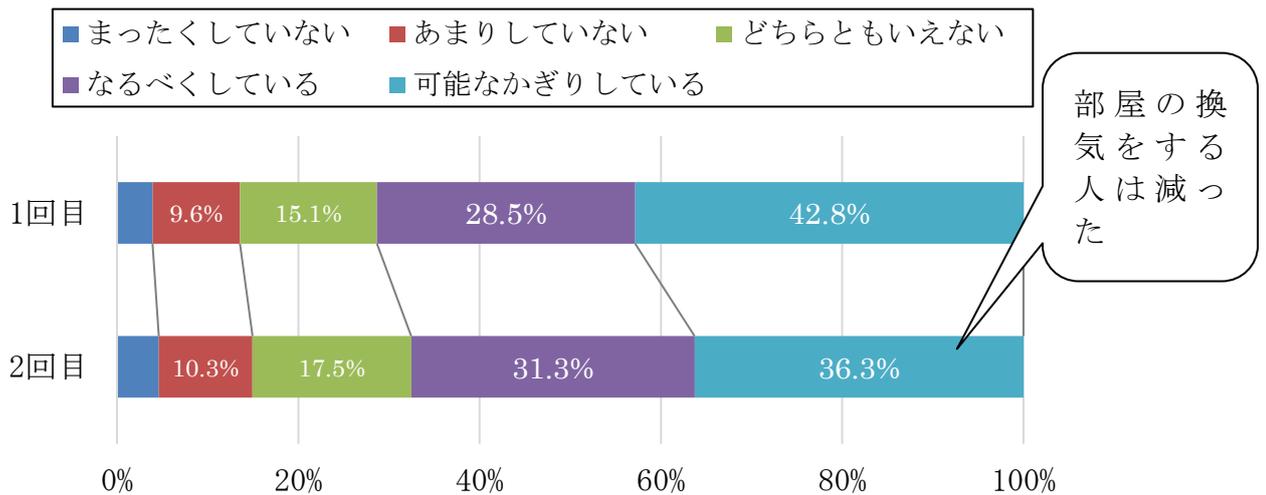


図6 部屋の換気状況

ストレス反応

それぞれの調査時点における新型コロナウイルスに関するストレス反応の程度を比較しました。

2時点ともに、「過去2週間の間、緊張感、不安感又は神経過敏を感じた」ことのある人は半数近いですが、「週の半分以上」と「ほとんど毎日」を選択する人の割合が、1回目調査と比べて2回目調査では下がっていました。

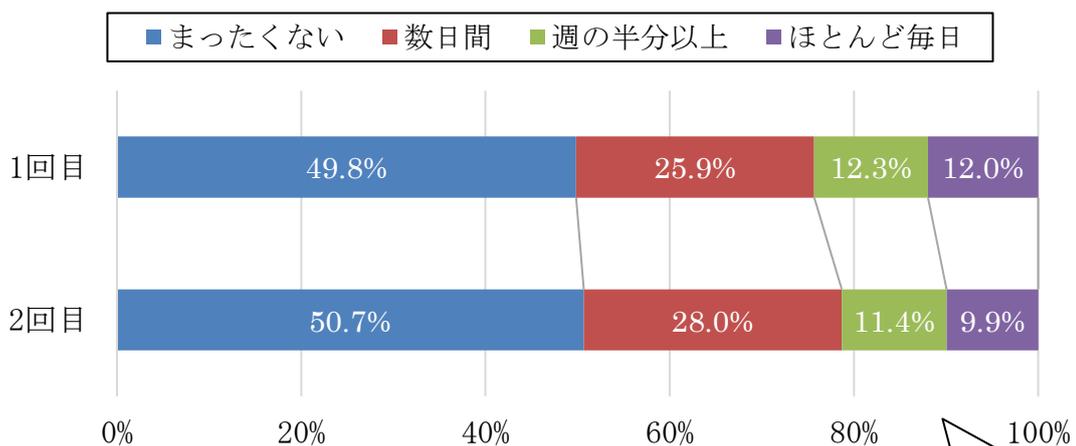


図7 ストレス反応

ストレスに感じること

また、新型コロナウイルスによって引き起こされた新たな状況に対して、どのくらいスト

レスを感じていることを尋ねました。

日常生活でソーシャルディスタンスを確保し、マスクを着用することに対してストレスを感じている人の割合は、1回目調査と比べて2回目調査では下がっていました。ソーシャルディスタンスを取ることやマスクの着用といった新しい生活様式に慣れた人が多くなっているようです。ただし、「ややストレスを感じる」「とてもストレスを感じる」と回答した人が2回目調査においても6割以上を占めています。

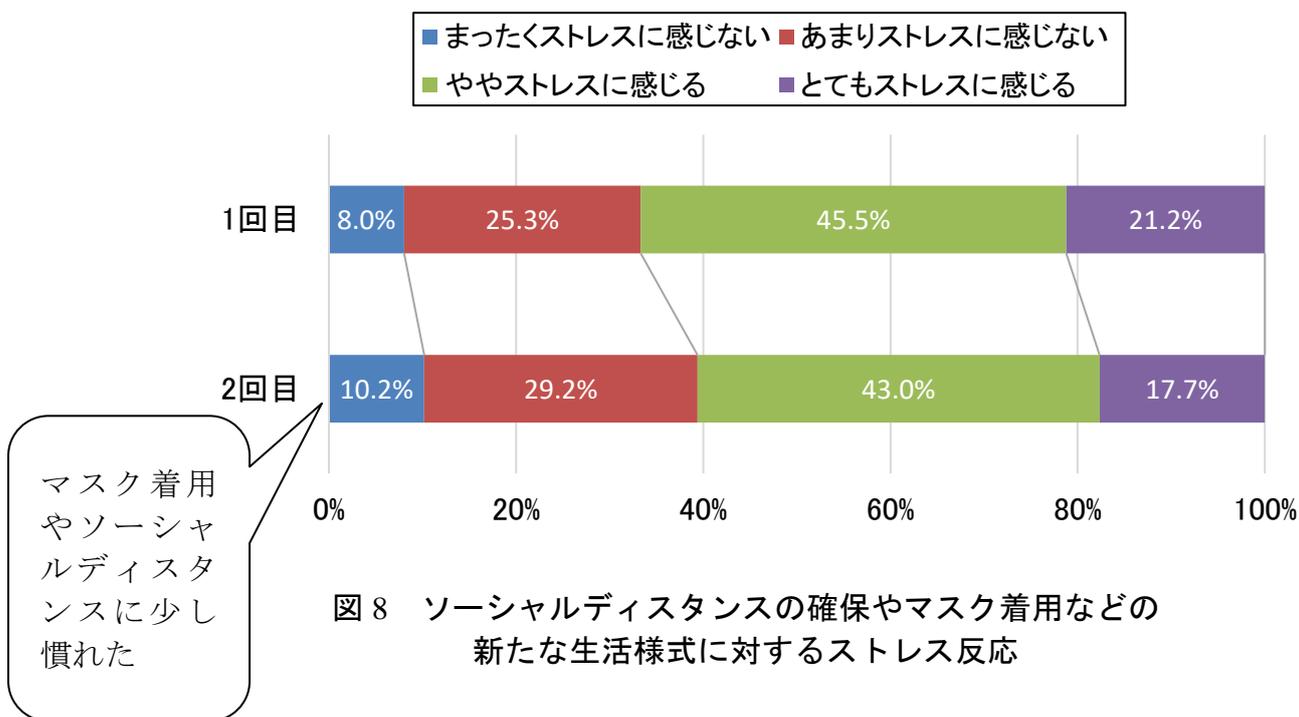


図8 ソーシャルディスタンスの確保やマスク着用などの新たな生活様式に対するストレス反応

「経済面の心配や仕事を失うのではないかと不安」として「ややストレスを感じる」「とてもストレスを感じる」と回答した人は、1回目調査よりも2回目調査のほうが多くなっていました。新型コロナウイルス感染拡大による経済不況の長期化が影響していると考えられます。

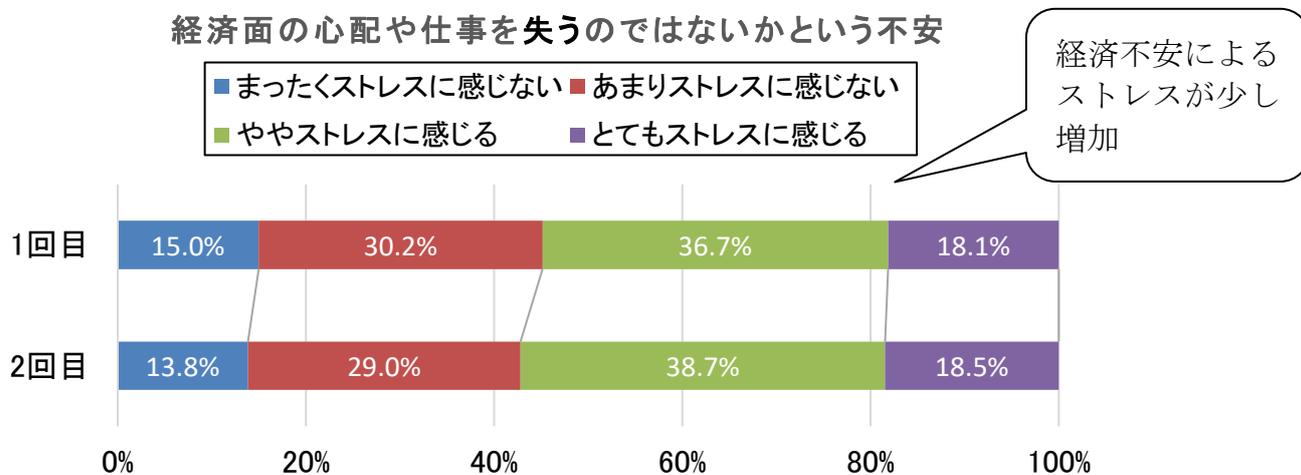
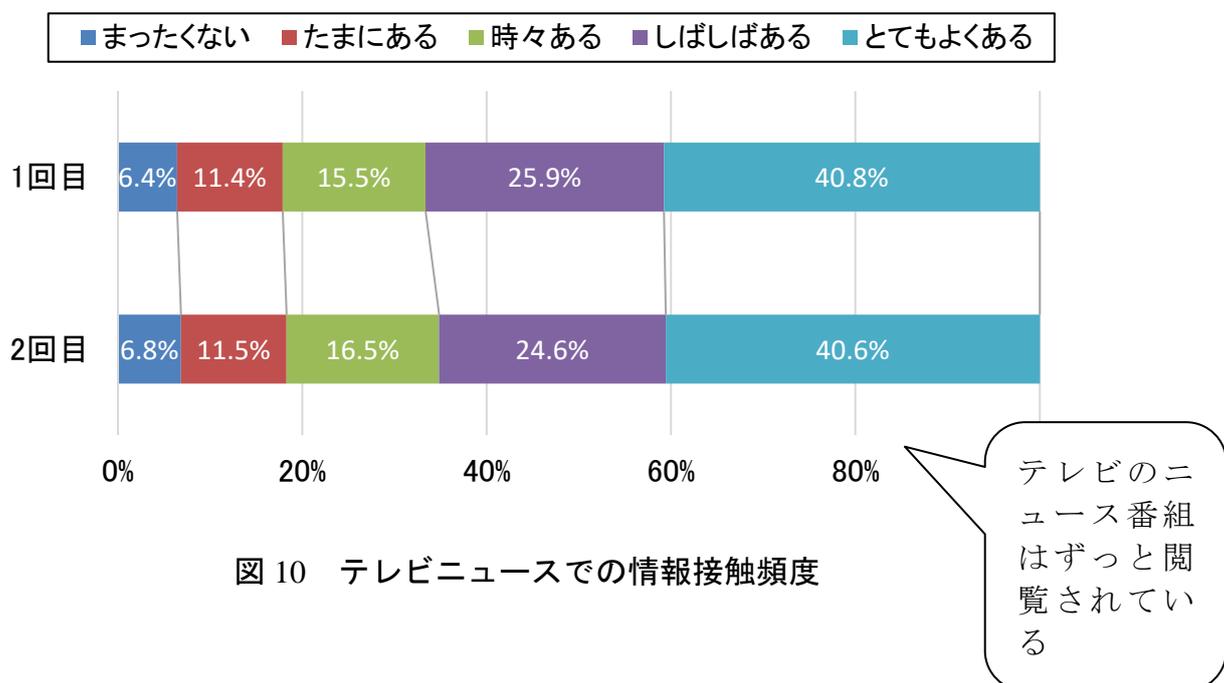


図9 ストレッサー「経済面」

情報接触頻度

新型コロナウイルスに関する情報をどこから入手し、どのくらいの頻度で情報に接触したかを尋ねました。情報源はテレビのニュース番組、インターネットニュース、SNS、人との会話の4つを尋ねました。

新型コロナウイルスに関する情報の入手頻度が最も多かった媒体は、テレビのニュース番組でした。1回目調査、2回目調査ともに4割の人が、とてもよく新型コロナウイルスに関する情報を得ると回答していました。また、25%前後の人がしばしば情報を得ると回答しており、1回目調査と2回目調査の間で、テレビのニュース番組から新型コロナウイルスに関する情報の入手頻度はあまり変化がありませんでした。



次に新型コロナウイルスに関する情報の入手頻度が多かった媒体は、インターネットニュースでした。2回目の調査時点で、インターネットニュースから情報を入手する頻度は全体的に少し下がっていましたが、「しばしばある」と「とてもよくある」を選択する人の割合は6割程度でした。

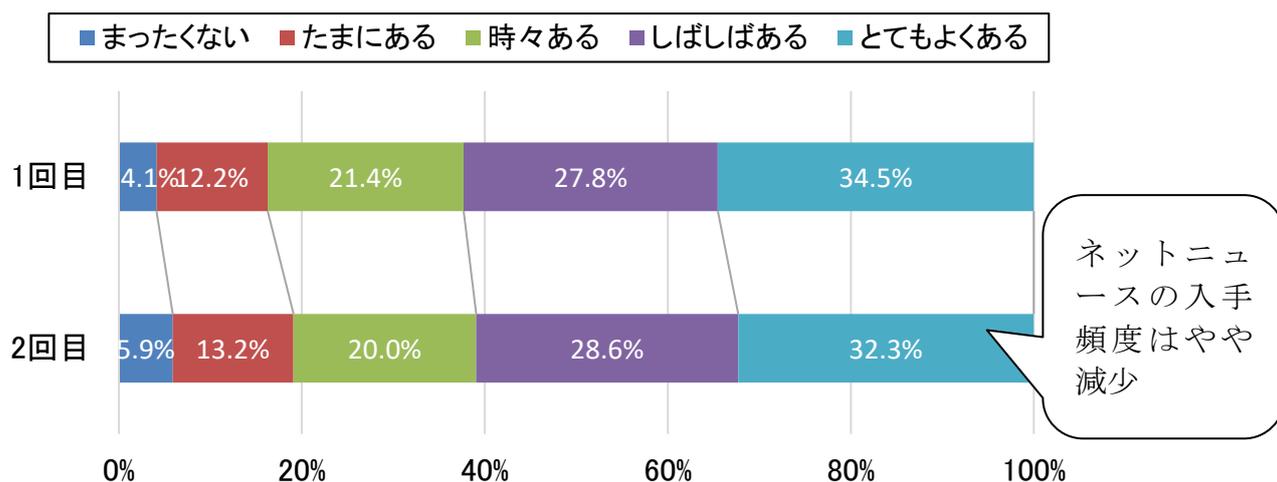


図 11 インターネットニュースでの情報接触頻度

SNS から新型コロナウイルスの情報を入手している人は、テレビのニュース番組やインターネットニュースと比べて少なくなっています。

インターネットニュースと SNS はともに、自分の関心のある情報にのみ触れることができるというフィルタ機能を持つため、これら媒体からの情報入手頻度が減少するのは、人々の新型コロナウイルスに対する関心が徐々に減っていることが考えられます。

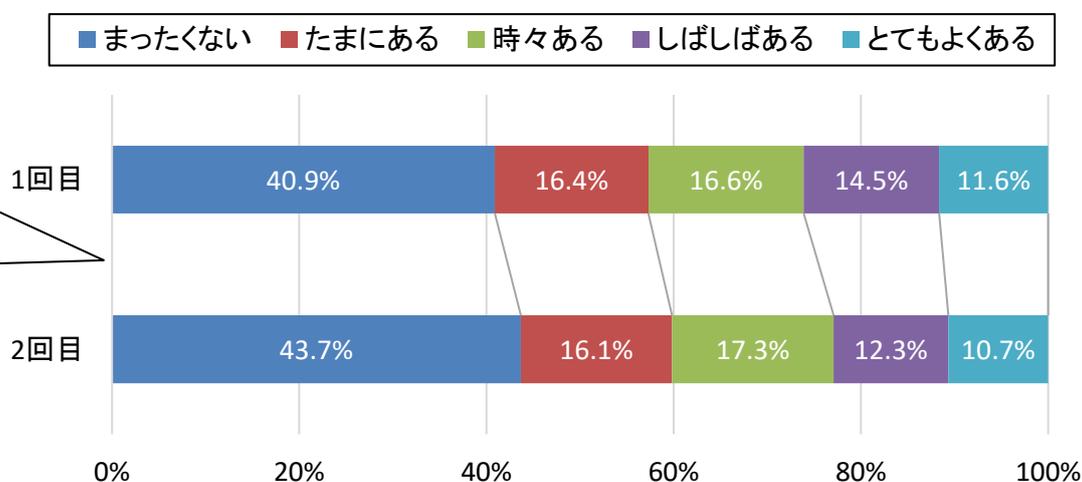


図 12 SNS での情報接触頻度

最後に、人との会話は、SNS からの情報接触頻度と同様の傾向が見られ、全体的に情報接触頻度が下がっていました。

2回目の調査時点で、新型コロナウイルスに関する情報への接触頻度が全体でみても少し下がっていましたが、新型コロナウイルスについて会話する人は9割ほどとなっています。

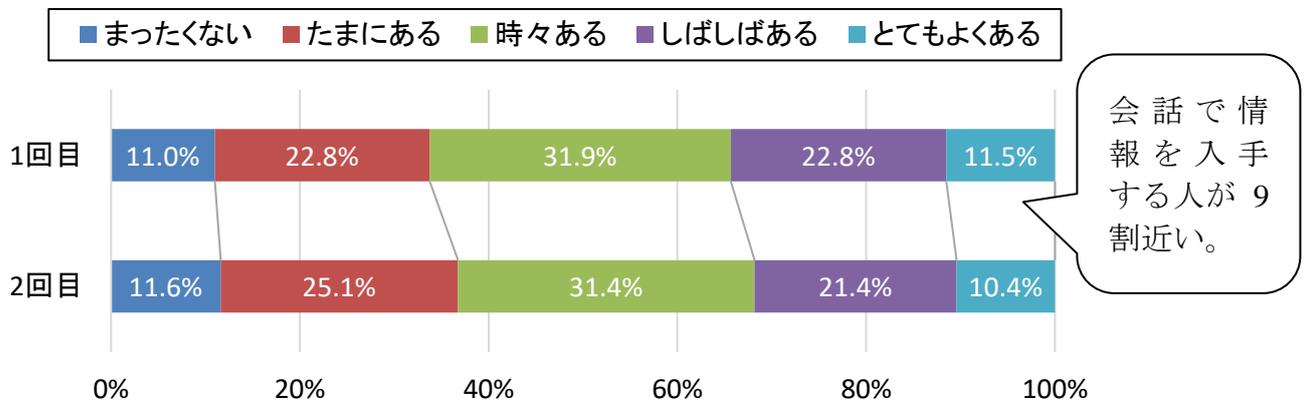


図 13 会話での情報接触頻度

まとめ

まとめると、1回目調査の時点と2回目調査の時点の間で、全体的に僅かに変化がありました。リスク認知は男女ともに2回目調査で下がっていましたが、不安感情は変化がありませんでした。また、感染確率については、自分の感染確率の予想のみが2回目調査で高くなっていました。対して、平均的な他者の感染確率には1回目調査と2回目調査で変化がありませんでした。

マスクの着用以外の予防行動はさまざまな程度の減少がみられ、新型コロナ感染対策が徐々にゆるくなってきたことが読み取れます。また、人々は新しい生活様式にだんだん慣れてきたようですが、経済的打撃からのストレス反応が高くなっていました。

新型コロナウイルスに関する情報は、テレビのニュース番組から入手する人が多く、これは接触頻度に変化がありませんでした。それ以外の媒体から新型コロナウイルスに関する情報を目にする頻度は減少していました。

**以上のような結果を得ることができました。
みなさん、アンケートへの回答、ありがとうございました！**